

第8回 昭和の森 親子田んぼ教室

田植え

花島 伸美（千葉市）

日 時：2019年4月28日(日)9:30～12:00 天候：晴れ

参加者：14名（おとな7名、子ども7名、5家族）

担当指導員：佐野由輝、山下美佐子、山田益弘、岡田富子、花島伸美

ビオトープの会：西川 章（千葉市緑公園緑地事務所長）

気持ちの良い春の風が吹く大型連休の前半に、今年度の「親子田んぼ教室」が行われました。田植え（4月）、草取り（6月）、稲刈り（9月）の3回コースで行われる親子田んぼ教室。今年度は、親子15組の募集に対して、5家族14名の参加（大人7名、子ども7名）と例年になく少人数となったので、2班編成に縮小し、ゆったりと田植えを楽しみました。

「昭和の森の田んぼは、肥料も農薬もなく、森からの養分を含んだ湧き水のみでできている。だから、生き物もたくさんいるのですよ。」という説明の通り、田んぼに入ると、オタマジャクシやメダカが目の前で泳ぎ、ザリガニが顔を出して、親子の歓声が上がりました。子どもたちはぬかるみに足を取られてよろけながらも一歩一歩足を進め、足の



真ん中、左右に稲の株を植えていきました。きれいに田植えが終わった田んぼを見ての充実感。

「一株で、ごはん一杯分のお米が取れます。今日は800株だから800杯分ですね。」との言葉に誰もが収穫を期待して、食いしん坊の顔でした。

生き物を採集するために、その後作った池で採集と観察をしました。子どもたちは、一段と生き生きとした目になって、泥の中からヤゴ・オタマジャクシ・ドジョウ・カエルやその他の水生昆虫などを次々に見つけ出していました。中には直接手で触れられない子どもや、外に逃げ出したカエルを必死に捕まえる子どもも。それを地面に敷いた「生き物つながりシート」の上に容器ごと置いて、植物プランクトンから動物まで生き物は繋がっていて、どれがいなくなっても成り立たないという説明をすると皆、納得していました。田植えから生き物のつながりを体験でき、6月の草取りまでの稲の成長を楽しみに解散しました。